

2016.09.23 於：衆議院第一議員会館 大会議室  
NPO法人日本動物虐待防止協会（NIPPONSPCA）主催  
動物愛護週間イベント「動物虐待のない世界へ」における講演の概要

## サンフランシスコの「猛犬判事」ジョン氏の仕事

ジョン・L・デニーさんは、1993年に非常勤で仕事始め、彼の30年のキャリアの大半をサンフランシスコ警察の猛犬関連問題に関わってきました。

2001年、一人の女性が、彼女のアパートの玄関ドアのすぐ外で、二匹のプレサ・カナリオ犬に襲われ、悲劇にも死亡する事件が起きました。その後の殺人事件について調査が行ったところ、彼女を襲った犬たちが市民に対して、66件もの威嚇や脅迫的な攻撃をしていたことが明らかになりました。それにもかかわらず、一件もそうした事案がサンフランシスコ警察やサンフランシスコ動物保護管理局に報告されていなかったのです。犬が人を攻撃したり、悪さをしたりした場合には、すべての事件が文書化されて報告・調査された上で、適正に法的手続きが取られるべきであるのは明らかです。

調査担当係官であるデニー部長とともに作り上げられたサンフランシスコ警察の猛犬危険犬担当部署は、噛みついたり攻撃したりしたすべての犬の調査を行いました。彼の仕事は、さらなる対応策が必要な事件はどの事件かを判断し、また必要があれば、準備をしてこれらの事案をサンフランシスコ猛犬危険犬裁判所での事情聴取に回すことを決定することなのです。デニー部長は、これまでに数1000件の犬の噛みつきや攻撃事件について検証し、調査を行ってきました。

2010年、彼は、聴取担当係官の仕事に異動し、1000件を超える事件を聴取し、裁判の判決を言い渡してきました。デニー氏は、2014年にサンフランシスコ警察を退官しましたが、その後も、退職者として、引き続き、猛犬・危険犬裁判所での調査官（聴取係官）の仕事をしています。彼は、事情聴取に際しては、建設的で脅迫的ではない態度で聴取を行うことにより、今後は行儀の悪い犬たちが市民の安全を脅かすことがないように犬の飼い主をサポートするよう努めています。

翻訳：池田こみち（Komichi Ikeda） 2016.09.10